令和２年度　新富町立富田小学校学校評価書

評価：「４：よくできている」「３：できている」「２：あまりできていない」「１：できていない」　○成果のあったこと　●課題・改善が必要なこと

重点目標		ゴールイメージ	課題と具体的な手立て	自己評価の手立て（時期、評価基準・数値目標）	学校の自己評価コメント（結果の考察・分析）	自己評価（評定）指標別	自己評価（評定）総合	学校関係者総合評価	学校関係者評価コメント	次年度への改善策
学力の向上・授業づくり（学ぶ意欲と学ぶ喜びのあふれる学校づくり）	1	児童が問いをもって学習し、「分かる」「できる」「つかう」ことを実感する授業を展開する。	①学習習慣の定着 ・基本的な学習態度の共通理解 ・指導の徹底（月目標による重点指導）	○教職員へのアンケート 「月目標による重点指導」（4月達成80%）	○　４月当初「学習のきまり」を配付し共通理解を行ったが、休校や分散登校となり定着に至らなかった。そこで、７月に再度月目標に設定し指導を行ったり、ＳＷＰＢＳキャンペーンで話の聞き方について指導したりして学習習慣の定着を図った。（９２％達成）	3	3	3.1	○　成績を上げることだけが目的ではなく、児童を総合的に見て評価していただきたい。	○　次年度も習熟の時間の確保を考えた授業づくりをしていくとともに、各種学力調査の結果を生かして個に応じた指導が展開できるようにする。
			②基礎・基本の定着 ・習熟の時間の位置づけ ・効果的な少人数指導の活用	○CRT検査2月　3段階出現率 （評価2以上90%以上）	○　毎日の授業や昼のスキルアップタイムで習熟の時間を確保したり、町学力向上補助教員による個別指導等を行ったりしたことで、基礎・基本の定着を図ることができた。（評価２以上９０％以上達成）	3				
	2	授業力・指導力の向上を図る。	①学習指導の充実 ・授業改善４＋４のポイントの具現化 ・学習指導の工夫（適切な仕掛けと見届け等）	○教職員の自己評価学力向上対策 （学年・全校）（3月達成80%）	○　授業改善４＋４のチェックポイントを、研究授業の指導過程の中に取り入れたり、研究授業の成果を生かして授業を行ったりしたことにより、学習指導の充実に繋げることができた。（各項目平均８６%）	3			○　今の学校の方針は間違っていない。授業改善やＳＷＰＢＳの取組を軸に、児童中心の学校経営を進めてほしい。	○　取り組み方に差があるので、全職員が同じように指導できるようさらに共通理解を図り、共通実践を強化していく。
			②職員研修の充実 ・メンターチームによる研修 ・重点支援校訪問を生かした研修	○教育課程評価（１２月実施）満足度80% ○職員研修に関するアンケート （１～２月実施）満足度80%	○　SWPBSに関する行動マトリックスを全職員で作成し教室に掲示することで、めざす児童像と関連づけながら指導することができた。 ○　年３回のキャンペーンを通して、職員が児童を「ほめる」という意識を高めることができた。（満足度８０%以上達成）	3				
	3	家庭と連携した学習や読書活動の充実を図る。	①家庭学習の充実 ・富田っ子ホームワークプランの確立 ・学習習慣の実態調査、保護者への啓発等	○児童、保護者への実態調査 （6月達成80%）	○　ホームワークプランを活用しながら、「自律的に学ぶ自立した子どもを育てる」ことを目指し、各学年、工夫して家庭学習の定着に取り組んだ。また、６月に実態調査を行い、参観日に結果を報告し、家庭への啓発を図った。（実態調査実施１００%）	3			○　まず「自分が目指すゴール」を児童にイメージさせ、そのために「今を何すべきか」を具体的に考えさせることで、自発的・自律的な学習につながるのではないか。	○　家庭学習に個人差が見られるので、引き続き個別指導を行ったり、保護者への啓発を行ったりする。 ○　更に読書の質を高めたり、幅を広げたりできるよう情報発信していく。
			②読書活動の充実 ・町学校読書サポーターとの連携 ・毎日１５分（1日の1%）の読書励行	○児童、保護者、教職員へのアンケート （3月達成80%）	○　町読書サポーターと連携し、蔵書の選定や読書イベント等を行い、図書館教育を充実させることができた。昼の読書タイムやすき間の時間を利用して読書する児童が増えてきている。 （アンケート達成率８８%）	3				
特別支援教育・生徒指導の充実（明るく活気あふれる学校づくり）	1	日常生活における積極的な生徒指導の徹底を図る。	①基本的な生活習慣の育成 ・先回り指導、見届け指導の徹底 ・家庭や地域との連携 ・生活指導月間での重点指導	○月目標（自己評価80%） ○清掃指導週間による観察・評価	○　本年度は生徒指導部の取組だけでなく、ＳＷＰＢＳキャンペーン（研究部）と連携しながら、清掃や話の聞き方等において「ほめる指導」で定着を図ることができた。（自己評価88%）	3	3	3.2	○　「ほめて伸ばす指導」は、児童にとって分かりやすいモデルを示すことで動機付けを図ることができる。今後もその考え方で進めてほしい。	○　次年度も、ほめる指導を中心にして、児童が素直に自分を見つめ直し、前向きに成長できるよう指導を工夫していく。
	2	思いやりの心・感謝の心・人権感覚を醸成する。	①各種活動を通した醸成 ・委員会活動の充実 ・ボランティア活動、体験的活動の充実	○委員会反省（教育課程評価80%） ○児童へのアンケート（2月末満足度80%）	○　６年生以外も参加の見られた朝のボランティア活動や。土曜授業での地域人材活用・体育でのサッカー指導など、体験的活動を充実させることができた。（教育課程反省８４%）	3			○　集団の中でいかに自分のことを伝えるか、また相手の思いをどう受け止めるかを、様々な場面で子ども達に考えさせてほしい。	○　委員会活動の意味、学校を支えていく高学年の役割等について、児童が主体的に考え、活動していけるよう仕組んでいく。 ○　人権週間における啓発が日常に生かされるように、定期的に振り返りをしていく。
			②人権教育の推進 ・児童、職員の人権意識の高揚 ・人権問題（ＬＧＢＴ等）について考える場の設定	○職員へのアンケート （研修後満足度　80%）	○　児童に対しては１２月に放送による人権集会を実施し、職員に対しては人権に関する研修（拉致問題）を実施し、それぞれ人権意識の高揚を図ることができた。 （研修に関するアンケート満足度８１%）	3				
	3	組織力を生かし、いじめ・不登校の未然防止に努める。	①いじめや差別を許さない学校づくり ・いじめ悩み相談、アンケートの実施 ・授業での啓発及び日常生活での具体的指導	○相談カードを活用した教育相談の実施 ○問題発見後の確実な解決及び経過観察	○　いじめ悩み相談、アンケートを実施し実態を把握した上で聞き取りや指導することで、いじめの未然防止、解決に努めた。また、サポートミーティングを実施し、注意や指導を要する事案について関係職員で共通理解を図り、具体的な指導ができるようにした。	3			○　最近ではメディアを媒介としたいじめがあったり、子ども達が犯罪に巻き込まれたりするケースも少なくない。保護者・ＰＴＡが協力して取り組んでもらいたい。	○　ユニバーサルデザインに基づいた通常学級でも有効な支援の在り方に関する研修を計画する。 ○　町補助教員、町特別支援教育支援員の先生方にも特性に応じた対応の在り方を伝える。
			②特別な配慮を要する児童への指導及び支援体制の充実 ・特別支援教育に関する研修の充実 ・町補助教員、町特別支援教育支援員の効果的な活用 ③ＳＷＰＢＳを視点にした教育活動と環境の整備・充実	○職員へのアンケート （2月満足度80%）	○　校内支援委員会等を通し、特別な配慮を要する児童に対する支援体制の充実を図った。特別支援教育に関する職員の評価は、Ａ・Ｂ評価を合わせると、８６%であった。	3				
	1	体育の日常化と体育指導の工夫充実を図る。	①体育指導の工夫充実 ・合同及び学年体育による段階に応じた指導の場の設定 ・体育用具の保管・整備・充実	○教師による自己評価 ○備品・用具の充実	○　体育用具については、新講堂建設に併せて、購入と整備を計画的に行った。	3	3.2	3.5	○　最近は公園で元気よく遊ぶ子どもが少ない。コロナによって、外で遊ぶにもマスク着用が必要で子ども達にとっては窮屈だろうが、体力作りや脱ゲーム依存のためにも、学校から積極的に情報の発信、啓発活動を続けてほしい。	○　必要な備品を学年末に洗い出し、新年度に職員に確認してから購入の計画を立てる。 ○　朝の体操については、本年度同様、朝の放送で全校に呼びかけて、各学級で実践する。
			②体力向上のための取組 ・体育の日常化を図るしかけと成果を共有できる工夫 ・サーキット等の継続的な位置づけ	○朝の体操の例示と実施状況調査	○　朝の体操を例示した掲示資料を各学級に配付し、朝の会で取り組むことができた。また、学校保健委員会や１２月の学級懇談会で紹介し家庭に対しても啓発することができた。	3				
	2	命の大切さを意識させる指導の充実を図る。	①交通安全指導の充実 ・交通安全教室の実施 ・登校班長会・集団登下校での安全指導の徹底	○定期的な地区集会とOKカードでの評価	○　地区集会での情報収集や職員による登校の見守りを行うことによって、集団登下校に関する具体的な指導に生かすことができた。	3			○　あいさつに少し元気がないように感じる。コロナ以前と比べてみんなで楽しく登下校とはいかないだろうが、元気なあいさつができるよう指導を工夫してほしい。	○　集団登下校については、班長・副班長に自覚と責任を持たせながら、リーダーとしての資質を育てていく必要がある。 ○　保護者引き渡し訓練をさらに充実させることで、有事の際でもしっかり機能する体制を作っていく必要がある。
			②命の大切さを考えた学校づくり ・避難訓練、保護者引き渡し避難訓練の実施 ・地震、津波に対する防災教育の充実	○計画的な学級活動での指導 ○訓練実施後の職員及び保護者へのアンケートの実施	○　昨年度の反省をふまえ保護者引き渡し訓練を行ったので、よりスムーズに実施することができた。	3				
	3	保健指導の充実と家庭との連携強化を図る。	①保健指導の充実 ・衛生習慣の定着促進、姿勢指導の徹底、感染予防対策 ・歯科受診率の向上	○さわやかチェックの実施 ○児童による自己評価の実施	○　さわやかチェックでの定期的な見届け、毎朝の検温・体調チェック、手指消毒の徹底、手摺などの定期的な消毒など、感染症対策を続けている。	4			○　コロナに負けない健康な体と心を作るための指導を今後も続けてほしい。また、先生方も健康で元気に頑張ってほしい。	○　手洗い練習のスタンプを次年度も活用し、手洗いの練習をするとともに、その他の感染症対策も継続・徹底していく。 ○　年１回の弁当の日とすくすくクッキング、毎日の黙食を継続する。メディアコントロールについては、学習部の情報担当や生徒指導部と連携する。
			②食育の充実と望ましいメディア習慣の確立 ・弁当の日の取組 ・メディアコントロールに関する指導	○弁当の日の実施 ○安全な食に関する給食指導の見直し ○長期休業中の生活カードの活用 ○外部講師による講話の実施	○　遠足での弁当の日、夏季休業中のすくすくクッキングなどを呼びかけた。感染症防止のため、黙食をの徹底を促した。長期休業前にメディアコントロールに関する話をして啓発を行った。	3				
信頼される学校づくり（学校評価の活用・家庭地域との連携強化）	1	地域に貢献し、地域から愛される学校づくりに努める。	①地域行事への参加 ・地域からの行事参加依頼に対する積極的な協力	○地域からの行事依頼の周知100%	○　本年度はコロナウイルス感染症の影響でほとんどの行事が中止になってしまったため、行事に参加することができなかった。	／	2.8	3	○　参観率・懇談出席率が低い原因を把握し、分析するとともに、懇談会に参加して良かったと言える会の持ち方を研究してほしい。	○　地域からの行事依頼は確実に周知するとともに、積極的に参加を促していく。 ○　次年度も学校ＨＰの定期的な更新と内容充実を図るとともに、メール配信システムによる素早い情報発信に努める。 ○　参観日は、授業の充実はもとより、学級懇談の内容を工夫して参観率・懇談出席率を上げていく。
			②積極的な情報発信 ・学級，学年通信、学校だよりの定期的な発行 ・HP，メール配信システムによる情報発信	○教育課程評価 （12月達成80%）	○　各通信・HPについては、内容を工夫しながら定期的に発行・発信することができた。また、新型コロナウイルス感染関係の連絡手段として、HPやメール配信システムが大変有効であった。 （メール配信システム活用・学校ＨＰ更新１００%）	3				
			③参観日や学校行事の充実 ・魅力ある参観授業や学級懇談会づくり ・ＰＤＣＡサイクルを生かした実施と記録の保管・活用	○保護者へのアンケート（12月実施） 満足度80%以上 ○参観率（全校）80% ○懇談出席率（全校）65%以上	○　本年度はコロナ感染予防のため、分散での参観授業・学級懇談の実施になり、参観率80%、懇談率65%を達成することはできなかった。 （１２月アンケート「分かりやすい授業」と回答９０%以上）	2				
		地域人材及び資源の効果的な活用を図る。	①地域人材や外部講師の積極的な活用 ・学校支援ボランティアの募集と活用 ・総合的な学習や土曜授業への外部講師の招聘	○教育課程評価（12月実施） 満足度70%以上	○　土曜授業（６月）における外部講師との活動では、ねらいに即した活動を展開することができた。また、家庭科ミシンボランティア、６年総合的な学習の時間の講話、サッカー学習支援などの取組で学習内容の定着につなげられた。（アンケート達成率７３%）	3			○　子ども達の未来を考え、生きる力を育む様々な体験活動の充実や、自分で将来設計ができるようなキャリア教育をお願いしたい。	○　次年度も授業支援者や団体と効果的に連携が図られるよう、連携の方法や時期などについて早めに連絡を取り合うようにする。
	3	学校評価制度の効果的な活用を図る。	①学校関係者評価委員会の内容の充実 ・９年間を見据えた小中合同による教育活動の評価 ・自己評価、学校関係者評価の分析と活用	○学校関係者評価　各項目３．５以上 ○自己評価・学校関係者評価の分析及び改善策作成100%	○　キャリア教育研修を小中合同で行い、９年間を見据えた到達目標を作成中である。（３月完成予定） ○　学校関係者評価委員会を定期的に実施し、学校の考えや様子を伝えるとともに、ご意見やご助言をいただくことができた。また、自己評価の考察・分析及び改善策作成は１００%できた。	3			○　民生委員としても、この学校関係者評価委員会で小・中学校と連携がとれたので、仕事がやりやすかった。	○　９年間を見据えた教育活動がさらに充実するよう、小中合同で話し合う場を設け、発達段階に応じた到達目標の設定と共通理解を図っていく。